

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4071001178		
法人名	有限会社 光		
事業所名	グループホーム 南薬院		
所在地	福岡市中央区警固3-2-28 〒810-0023 (電話) 092-725-5085		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年7月7日	評定確定日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(平成20年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人 常勤	7人 非常勤	2人 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての～ 1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(300,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有()円	有の場合償却の有無	有	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400円程度	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2			1名
要介護3	3名	要介護4			2名
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2			0名
年齢	平均 80歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・岡部・浦川クリニック 三宅内科 警固病院 黒岩歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人介護施設で従事してきた管理者が、「自由に生き生きと楽しく暮らせる家庭」を理念に掲げて、4年前に開設したホームである。所在地の警固は管理者の地元であり、利用者もほとんどが近隣の地域で暮してきたため、地域の食事会や餅つき、運動会に誘われたり、神社を借りてのホームの夏祭りを開催したりと積極的に地域交流に取り組んでいる。外出についても博多どんたく、十日恵比寿、民謡童謡のコンサート、博多歌舞伎座、ドームの野球観戦、居酒屋等、利用者が以前より慣れ親しんできた楽しみについて個別に支援をしている。また、利用者と家族が一緒に楽しむバスハイクや懇親会など、家族との交流の機会を確保し、利用者のみならず、「家族の気持ち」にも寄り添えるような支援に取り組んでいる。都市型生活の楽しみや地域・家族との交流、ホームでの役割など、利用者の生きがいや気持ちを尊重しての支援を実践しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について家族会及び運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会やミーティング時に内容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、人権学習や成年後見制度の学習の機会の確保、介護計画書の充実等の成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回、外部評価を実施するにあたり、職員に外部評価項目の内容を閲覧してもらい意見を聞くなど、全職員がかかわる取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者、家族、民生委員、町内会長、公民館長、包括支援センター職員の参加により2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議ではホームの概要や外部評価結果、ホームの活動内容や行事の報告、地域行事への参加の提案や、参加者からの質疑、応答など、質の向上に向けての取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 運営推進会議や家族会での働きかけ、家族との個別面談時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。特に、家族会と一緒に食事をしながらの懇親会形式とし、担当職員が、家族の意見をじっくり聞き、ケアプランへの反映や、支援の改善に努めるなどの取組みがある。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域主催の食事会や餅つき、運動会の見学、神社を借りてのホーム夏祭りの開催、お宮の清掃等、地域との交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意識して運営に取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	管理者が生まれ育った地域に開設されたホームで あり、地域との結びつきの中で、その人らしく生き生き と暮せる生活の支援を理念としている。職員は常に地 域との関係づくりを意識しながら業務に携わってい る。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に理念の説明が行われている。また、職員 会議や朝の申し送り時にも話を行い、職員は理念を 念頭において、日常の支援にあたるなど、理念の実 践への取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域主催の食事会や餅つき、運動会の見学、神社 を借りてのホーム夏祭りの開催、お宮の清掃等、地 域との交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわ りを意識して運営に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族会及び運営推進会議 時に報告を行い、職員は勉強会やミーティング時に内 容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向 上への取組みがある。今回、外部評価を実施するに あたり、職員に評価項目の内容を閲覧してもらい意見 を聞くなど、全職員がかかわる取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議時にはホームの概要や外部評価結果、ホームの活動内容や行事の報告、地域行事への参加の提案や、参加者からの質疑、応答など、質の向上に向けての取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター主催の研修会への参加等の機会を確保するとともに、職員の見学等を受入れている。また、行政担当者とは日常的に、ホーム運営や地域密着型サービスの支援に関する質問や相談を行い、助言を受けるなど、質の向上に取り組む姿勢がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者と家族には家族会時等で制度の概要や問い合わせの窓口について説明したり、資料を提示しながら手順について説明するなどの取組みがある。職員に対しては、外部研修の報告会や資料をもとにした勉強会を通じて学ぶ機会を持ち、制度の理解を深め、適切に対応できるように取り組んでいる。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけ、連絡ノートや金銭管理簿等を提示しての報告、毎月のホーム便りによる利用者ごとの状況やホーム行事等の報告を行っている。また、遠方の家族には、電話での報告やメールでの状況説明など、家族の状況に応じた働きかけが行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族との個別面談時などで、意見や思いの表出に努めている。特に、家族会と一緒に食事をしながらの懇親会形式とし、担当職員が家族の意見をゆっくり聞き、ケアプランへの反映や、支援の改善に努めるなどの取組みがある。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後回答するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を必要最低限にとどめるように配慮し、この1年は離職の事例がない。やむなく離職者がでた場合は、利用者のダメージを最小限に抑えるために、継続している職員で不安を軽減できる様に、意識して支援に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用においては、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず、ホームの理念に共感できることを重視している。レクリエーションや調理など、職員の特長を活かして、利用者との生活を楽しめる場面が多く持てるように工夫している。また、資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなどの配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の人権学習会へ職員が交代で参加している。加えて、事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、広義においての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。前回の評価を受けて改善された項目である。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	予め研修計画を作成し、毎月、ホーム勉強会を開催している。外部研修について掲示や回覧、会議時での情報提供を行い、職員の参加を募ったり、管理者が適切に割り振ったりするなど、外部研修への均等な参加の機会を確保している。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、協議会主催の勉強会や意見交換会等の交流を行なっている。同協議会では、利用者家族や市民などを招待する催事を開催し、ホーム全体が他の事業所と交流する機会とし、各職員が気づきをもってサービスの質の向上に活かすなどの取り組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居等により、利用者がホームに馴染めるかどうかを見極め、家族と相談しながら、サービスの開始を行っている。体験期間中は職員が寄り添いながら、他の利用者との挨拶などの機会を設け、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるように配慮している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の役割を尊重し、日々のケアの中で支えあう関係づくりに配慮している。利用者から、家事のアドバイスを受けたり、昔話を通じての人生経験等から学ぶ姿勢がある。職員も利用者も日々の会話を楽しみながら、ねぎらいの言葉をかけ合うなど、相互の存在を支えあう関係を築いている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に本人や家族からの聞き取りにより、生活歴等を含むアセスメントの概要をまとめ、記録や会議等での情報交換等により、職員全員で利用者の意向を把握している。入居後も、日常の会話や様々な場面を通じて、本人の思いを推し量れるように取り組んでいる。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の意向については訪問時の声かけやその都度の連絡や連絡ノートなどを通じ、各担当が中心となって把握に努めている。把握した内容はその都度追記していくなど情報の共有に努め、担当者会議にて検討・協議し、職員全員がかかわっての介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎日の申し送りにて、経過記録を提示しながら、利 用者全員分の情報交換と支援手順を確認している。 3ヵ月毎にモニタリング・評価・見直しを行い、状態が変化 した場合も同様の過程を経て、現状に即した介護計 画を作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	個別の外出支援や、家族が同行できない場合の通 院介助、入院にまつわる支援等、利用者・家族の要 望に沿って柔軟に支援している		現在、地域の公民館活動の一環として認知症を 知って貰うための、勉強会が計画されています。認 知症高齢者について広く知っていただくことにより、 地域として支えられる事や貴事業所が地域で期待さ れる事について再考し、事業所外の高齢者にとっ ても有益な取組みとなることを期待します。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家 族が入居後の主治医を選択している。原則的にかか りつけ医の受診は家族が対応し、定期的な受診と緊 急時は協力医が対応している。また、各利用者のか かりつけ医と協力医は同地域にあり、適切に連携をと りながら支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	昨年の運営推進会議にて、ホームの方針やできる 限りの支援について説明をしている。利用者の状況 に応じて、その都度家族・主治医を交えての話し合 いが繰り返し行なわれ、本人・家族の思いに添った支 援を行う方針を関係者で共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ、記録における 表現の指導等は、入社時や研修時、個人面接時やそ の都度、都度に行っている。個人情報となる記録等も 規程に基づき注意を払っての対応や取扱を徹底して いる。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、日々の過 ごし方、食事のタイミングや食事のとり方、居室やリ ビングでの過ごし方、外出への対応など、その日その時 の利用者のペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食材の買い出し、調理の下ごしらえ、盛り付け、配 膳、片付け等を職員と利用者が一緒に行っている。利 用者一人ひとりの好みを予め把握し、リクエストに応 じながら栄養バランスにも配慮したメニューを作成し ている。調査当日は、利用者と職員が会話を交わしな がら、和やかに一緒に食事を楽しむ雰囲気が見え た。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能である。時間は夕方から夕食後 位までの間で、なるべく利用者の希望に沿ったタイ ミングで入浴をお誘いしている。あまり入浴を好ま れない方には、タイミングを見計らっての声かけや、清 拭等を行い定期的な清潔保持の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	観劇やデパートめぐり、民謡や童謡のコンサート、居 酒屋での飲食等、個別の外出支援を行なっている。 日常的な買物、洗濯、掃除等、利用者ごとに、見合っ た役割をお願いし、日々の張り合いや生きがいとなる よう取り組んでいる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	年2回の外出、コスモスや紅葉見学など毎月1度の 季節の行楽や、気分転換のドライブ等を楽しんでい る。日常的には近所の散歩などを行い、車椅子利用 者も同様に外出を楽しめるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	職員は施錠することの弊害を認識しており、日中は 開錠されている。利用者個々の外出傾向を把握し、 状況に応じて支援を行なっている。玄関にセンサーを設 置し、安全面と自由な暮らしに配慮した対応がなされ ている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署のビデオ指導による自主訓練を行 なっている。また、運営推進会議等で提案された応援 体制が実現し、隣接する町内会長や、自治会からの 協力体制が得られるなどの取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の好みや食品成分表等を参考にして職員が メニューを作成している。糖尿病の利用者には主治医 と相談しながら、食事の量を調整するなどの支援があ る。食事摂取量を記録し、特別な水分補給が必要な 場合は、摂取の声かけや好きな飲み物を勧めなが ら、摂取量を把握し、水分不足にならないような工夫 がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然採光をふんだんに取り入れ、畳のス ペースがあり、数種類のソファや椅子が準備されて いる。掃き出し口からウッドデッキになっており、自然 の空気に触れながら、ゆっくりと居心地良く過ごせる 工夫がある。また、こまめに清掃されており、快適に 過ごせるように配慮している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが設備され、寝具や調度品、 写真、ソファ、テレビ、仏壇など、利用者にとっての 思い出の物や馴染みのものが持ち込まれ、居心地良 く過ごすための工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号